

ニトリルゴム製手袋など 衛生関連商品を扱う

パワフル 関西

●●535●●

株式会社エブノ

株式会社エブノ
(大阪府泉佐野市市場西)は1995年10月に設立されたニトリルゴム製手袋などの衛生関連商品を扱う企業である。



取締役 江野信江代表取締役 菊野信江
元専業主婦だった菊野代表取締役が眞弘氏の起業の夢を叶えたい思いからで

大手コンビニが採用

たいという夢があった。コロナ禍で衛生関連商品の需要が高ま

女性社員の雇用環境整備

としてサプライチェーンの機能を持つ子会社・愛保諾(上海)有限公司を擁する。また全国規模で560社という豊富な販売代理店ネットワークや、全国6カ所の物流拠点を活用し、納期短縮や在庫確保など顧客サービスを強化している。現在は食品加工用の使い捨て手袋は国内でトップシェアを占め、医療・福祉業界まで市場を拡大している。同社設立のきっかけは菊野信江代表取締役の長男・眞弘氏が幼い頃から起業し

ニトリルゴム製手袋を採用。それによりエブノの知名度が日本国内に一気に浸透した。菊野代表取締役はニトリルゴム製手袋について「コロナ禍で安全性が高い衛生用品の需要は増している」と話す。需要が増しても、創業から常に在庫を確保することで取引先に供給不足

2013年4月、ネーミングライツ取得

「エブノ泉の森ホール」

による価格上昇を抑制し、新規取引先への供給も含め安定した商品の供給に取り組んでいることが強みだ。2013年4月、本社を構える地元・泉佐野市立文化会館(泉の森ホール)のネーミングライツ(命名

本社、物流拠点の拡充へ



エブノ・本社(大阪府泉佐野市)

歳までの子どもを養育する従業員が利用できる短時間勤務制度など、仕事と生活のバランスを図り雇用環境の整備に努めている。現在、同社は本社および物流拠点の拡充を検討しており、泉佐野市に約2200坪の土地を購入し

権)を取得し、「エブノ泉の森ホール」と名付けられた。ネーミングライツ取得について、菊野代表取締役は「当社が今日のように成長・発展を続けてきたのは、地元・泉佐野市をはじめ、全国の皆様に支えられてきたからこそ。今後一人ひとりのお客様を大切に、企業活動を続けてい

く」と抱負を語る。2017年に育児・介護休業法が改正され、女性社員の比率が高い同社は女性が働きやすく活躍できるように「株式会社エブノ行動計画」を策定した。行動計画では、出産予定の従業員に

。今後に向け、菊野代表取締役は「2200坪の土地を有効に活用し、顧客サービスをさらに拡充すること」で持続可能な成長を目指す」と力を込める。(本社)大阪府泉佐野市市場西1丁目9番8号(資本金)3000万円(従業員)50名(売上高)130億円※2021年6月期予想(岡田哲弥)

食品加工用は国内でトップシェア

では、出産予定の従業員に